



第144号

宇都宮市立西原小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
栗原 武夫

印刷所
(有)正栄社印刷所

主張

学校の新しい生活
様式と学校経営

栃木県小学校長会副会長
潮田 裕子



二〇二〇年は新型コロナウイルス感染症に向き合う年となった。本来なら今年度は、新学習指導要領全面实施、道徳や小学校英語の教科化、プログラミング教育を進めつつ、「主体的・対話的で深い学び」を実現していくはずだった。しかし、今年度は感染症予防に最大限配慮しつつ、学習の

機会を保障する学校経営が求められた。先が見えず、常に不安がつきまとった。新型コロナウイルス感染症の影響で、一斉臨時休校となり、新しい生活様式への対応、学習を保障する取組等に加え、教育計画から活動内容を見直し、その対策が練られ、対応を迫られた。まず、子どもたちが安全・安心に生活できることを第一に考えた。次に学習の保障、そして教職員の健康とメンタル面の管理等。今年ほど最悪の事態を考え、計画したり対応したりするなど様々なことに取り組んだ年はなかった。また、教職員が知恵を出し合い、新たな方策について話し合い、共通理解を図りながら学校運営にあたったことも



(壬生町立睦小学校)

なかった。改めて「同僚性・協働性」を感じた。コロナ禍で次から次へと課題が出てくる中、県校長会にて、他市町の様々な取組やGIGAスクールの実施状況等情報交換できたことは学校経営をする上でも励みとなり、心の支えとなった。今回コロナ禍で見直したり、改善したりしたことを次年度に生かし、地域、家庭、学校が一体となってこれからの未来を担う子どもを育ていきたい。

主張

ICTの効果的な活用を

栃木県小学校長会副会長
篠山 充



国立教育政策研究所が二〇一九年に公開した「PISA2018」の結果によると、日本は他国に比べて、学校の授業(国語、数学、理科)におけるデジタル機器の利用時間が短く、OEC D加盟国中最下位というショッキングな結果が出ました。今回、新型コロナウイルス感染症の対応のために、前倒しで国からの予算付けがなされ、県内全ての市町においてGIGAスクール構想の実現が図られることになったと聞きました。少なくとも次年度からは、授業中、児童一人一人の机の上には、タブレット端末等が置かれ授業が進められるようになるのではないのでしょうか。

このことから、早急に学校がしなければならぬことは、教職員が一人一台のタブレット端末等をどのように授業等で効果的に活用するか、また、児童がスムーズに操作できるかなど両者のスキルアップを図ること、実際の授業に耐え得る、より実践的な授業計画を教師が立案する能力を高めていくことが重要となると思います。

小学校は、今年度から新学習指導要領が実施となり、様々な教育改革に対応しながら働き方改革も同時に進めている中ですが、ICTの活用研究は避けて通れません。本校では、今年度の市教委の方針に基づき、まず教員がオフィスソフトを使いこなし、デジタル教科書や自作教材の効果的な提示ができ、遠隔学習システムが使えるように研修を進めています。また、本市では、学校ICT活用推進委員会が組織され、授業における効果的な教材の開発や活用研究を進めたり、事前検証をしたりしている学校もあります。今後は、研究成果等を共有し、自校の研修も充実させながら、令和3年度にスムーズにスタートが切れるようにしていきたいと考えています。

(大田原市立西原小学校)

地区だより

宇都宮地区

本地区では、活動目標を「自ら未来を創造し、ともに生きる社会を創る子どもを育成を目指す 学校経営の推進」とし、学校経営・教育課程・社会への対応・豊かな心の醸成・人材育成・働き方改革・危機管理・連携の八つについて具体目標を設定して活動を行った。

四月の定期総会及び全体研修会は紙面開催、七月の第一回全体研修会は、全連小及び関ブロ茨城大会・栃木大会についての報告と班別研修を行った。十一月には上三川町との合同研修会を開き、文部科学省総合教育政策局調査企画課学力調査室専門官(命)初等中等教育局初等中等教育企画課学びの先端技術活用推進室専門官の大和田頼尚様より、「真の学力向上を目指す上で大切なこと」という演題で講話をいただいた。

上三川地区

本地区では、研究主題を「健全育成のための家庭・地域・関係機関との連携」に設定し、町内各小学校の学校運営協議会を核にした連携の成果及び課題を整理・共有してきた。そして、「地域とともにある学校づくり」について、上三川町小学校長会研修会を通して研究を進めてきた。

今年度は、六回の研修会を開催した。学校がどのようには家庭・地域・関係機関と連携を構築し、児童の健全育成を推進していくかについて研究を深める中で、校長自身が自校の学校経営を見つめ直すよい機会となった。今後も、よりよい連携の在り方を模索しながら、児童の健全育成を目指す学校経営の推進に繋がっていききたい。

上都賀地区

本地区では、県の基本目標を踏まえて二つの市で各市・学校の現状と課題を明らかにし学校経営の改善・

充実を図るための校長の役割についての研修を推進した。特に校長としての関与性と指導性に焦点を当てた。鹿沼市は「ともに学び続け、心豊かに生きる子どもの育成を目指す学校経営の推進」日光市は「校長の資質の向上と様々な課題への対応」学校経営・人材育成の継承」とした。今年度は、新型コロナウィルス感染症予防のため、二つの市の混合のグループ協議は行わず、各市長長会で計画的に研修を展開した。

芳賀地区

本地区では、昨年度から来年度開催の「第七十三回関東甲信越小学校長研究協議会栃木大会」のテーマに準じて主題を設定し地区全体で研究を進めてきた。今年度は、各校の成果をもとに、副題を「教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る教育課程の工夫・改善」とし、内容を絞って研究を進めてきた。全体研修は年三回実施し、特に第二回研修会では、主題の「未来社会を拓いてい

くための学力を育む」ため、「教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る」をどのようにとらえ実践するか熱心な意見交換がなされ有意義なものとなった。研究内容は、研究収録にまとめるとともに、来年度の提案に生かしていく。

下都賀地区

本地区では、関ブロ栃木大会の発表を念頭に置き、「一人一人の存在を大切に、子どもたちが輝く学校経営」を研究主題に、校長としてのリーダーシップの在り方を中心に研究を進めてきた。十一月には、文科省人権教育研究推進校指定事業に取り組んできた学校から「自他のよさを認め合い、思いや願いを大切にできる子どもを育成」一人一人にとつて居場所のある学校・学級づくりを目指して」と題して実践報告を聞いた。コロナ禍で制約が多いが、教職員の参画意識を高め、できることを最大限に行って児童の自己肯定感を高め、していくことの大切さを再確

下野地区

本地区では、研究主題を「教職員の資質・能力の向上を目指す校内研究・研修における校長の役割」とし、校内研修や体制の在り方について研究を進めた。本主題は来年度関ブロ栃木大会にて本地区が担当発表テーマでもあり、研究課題を一元化して市内小学校十一校全校で取り組んでいる。コロナ禍の学校運営となり苦難の中にあるが、このようなきだからこそ校長会が結束して細かな情報を持ち寄り、研究課題への取組を進めてきた。学校の実情や児童の実態は違えども、各校とも、より効果的な研修を目指して実践・検証を深めることで、必要な研修内容と研究組織の在り方が明らかにようになってきている。

今後校長のリーダーシップで、現今求められている教職員の育成のため、実践研究を深めていきたい。

●●●●〔小山地区〕●●●●

本地区では、若手教職員の資質・能力の向上を目指し研修を重ねている。今年度は、若手教職員の「困り感」に視点をあて、組織を生かした対応や環境作りなど、校長としての関わりについて協議し、自校の実態を踏まえ生かすことができた。また人材育成では、管理職からの認容・策励が意欲を高め、資質・能力の向上にもつながることが確認できた。他にも、全教職員の資質・能力の向上を図るためアンケートを実施し、小山スタンダードを策定した。

●●●●〔栃木地区〕●●●●

本地区では、例年研究主題を設定し、いくつかの班に分かれて研究を進めているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対応に関する協議や情報交換を行った。四月は臨海自然教室、

授業参観やPTA総会、校外学習、地域の方を集める行事への対応について、五月は学童支援、「学びのすがた」の取り扱いについて協議や情報交換を行った。その後も学校再開に伴う感染症対策や運動会、修学旅行、栃木市の新型コロナウイルス感染症対策マニュアル等について話し合ってきた。

先が見えない中、情報を共有しながら、課題を乗り越えることができた。

●●●●〔塩谷地区〕●●●●

四月の定期総会は総会資料を地区内全ての小学校長に配付し、承諾をいただく形で実施した。七月に予定していた講演会は中止となった。しかし、地区内の二市二町では市町ごとに研究主題を定め、月ごとに行われる校長会の際に研修を進めた。

地区内の小学校長が一堂に会する機会はなくなってしまうが、コロナ禍での修学旅行や運動会等の学校行事の実施方法・各種PTA行事の持ち方等の情報交換を、電話等により頻繁に行っ

てきた。物理的な距離は離れてしまったが心の距離は密となったように感じている。

●●●●〔那須地区〕●●●●

本地区では、関ブロ栃木大会「令和三（二〇二二）年度」発表の提案領域について研究主題を設定し、各校の現状や課題、取組等をもとに、大田原市、那須町、那須塩原市の三市町でそれぞれ研究を推進した。

大田原市では指導・育成（研究・研修）「キャリアステージごとの資質向上に向けた研修の推進」、那須町では学校経営（組織・運営）「効果的な教育活動を行うための学校の働き方改善」、那須塩原市では教育課題（特別支援教育）「家庭や関係機関との連携による特別支援教育体制の構築と充実」という研究である。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため地区全体での研修会は実施せず、各市町ごとに研究を推進した。

●●●●〔南那須地区〕●●●●

本校長会は会員八名の県

内最小の校長会なので、全員が研修に関わっている。今年度は関ブロ栃木大会提案テーマである「未来社会を見据えながら、情報社会を主体的に生きる子どもを育む情報教育の推進」の研究に、研修部長を中心に取り組んでいる。特に「プログラミング教育」については、推進のための校長としてのリーダーシップの在り方についての協議や各校の取組についての情報交換を行っている。また、校長のスキルアップのため、十一月に県総合教育センター指導主事の糺谷隆雄先生をお招きして、情報教育についての講話をいただいている。

●●●●〔佐野地区〕●●●●

本地区では、来年度開催予定の関ブロ栃木大会を視野に入れ、昨年度から二年計画で研修を続けてきた。本地区に割当てられた「国際理解教育」について、一年目は、四つのグループに分かれて各学校の実践を集め協議を行った。二年目となる今年度は、

一年目に集めた各校の実践例をもとに、分科会での提言内容の概要をまとめた。研修部が中心となり作成したプレゼンテーションを会員全員で確認し、修正事項等協議した。これらの研修を通して、市内各校の取組について一層共通理解を深めることができた。

●●●●〔足利地区〕●●●●

本地区では、「学校力を高め、新たな知を生かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営」学校教育の「横」と「縦」への広がりを見据えた学校経営の在り方「」を研究主題として、「学校・家庭・地域社会の三者が連携・協働した開かれた学校づくり（学校教育の「横」への広がり）」「子ども

の育ちの連続性を考慮した異校種間の接続（学校教育の「縦」への広がり）」の二つの視点から研究を深めた。また、新型コロナウイルス感染症防止対策について、各学校の取組を紹介し、対処方法等を十分に話し合い、市教育委員会と連携しながら共通理解を深めた。

自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子どもを育成を目指す学校経営

コロナ禍での持続可能な学校教育活動の推進

小山市立下生井小学校 上野 敏晴

本校は、小山市の南西端に位置し、西側にはラムサール条約湿地に登録された渡良瀬遊水地が広がっている。児童数は三十二名と少なく、小山市の小規模特認校となっている。本校の特色ある教育活動は、遊水地や杏の里、コウノトリ等の地域資源を活用した体験的教育活動であり、生活科や総合的な学習の時間に実施している。

また、小規模特認校の特色ある教育活動として、放課後活動がある。サッカー教室、クリスマスコンサート、正月飾り作り、藍染め体験等、魅力ある活動を年に十回程度実施している。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、多くの教育活動が例年のようには実施できなかった。しかし、様々な工夫をし、実施にこぎ着けた活動もある。

まずは杏の実とりとジャム作りである。杏の実とりは、例年六つの縦割り班に木を割り当てて実施していたが、密にならないように学年ごとに十班に分け、実施した。ジャム作りは、家庭科の時間に五年生が取り組んでいたが、調理ができなかった。そのため、外部と連携し、栃木市にあるジャムメーカーのタカ食品工業株式会社のご厚意で、作ることができた。



杏の実とり



学校祭集合写真

放課後活動の一つである藍染め体験は、事前に講師と綿密な打合せをし、藍のパケツを増やして、換気に気を付けながら実施した。学校祭は例年実施していたバザーや売店、昼食の提供を中止し、学年発表と全校合奏、作品展示をメインの活動とした。

「持続可能性」を維持するには、変化に応じた取組も必要となる。遊水地に営巣しヒナが誕生したコウノトリは、令和時代の本校のシンボルである。そこで、学校祭の新名称を児童から募り投票で決定した。「こうのとりの幸せフェスタ」である。

また、今年から田んぼの学校が始まった。収穫したお米で作ったおにぎり弁当を学校祭当日に配り、昼食提供の代わりとした。

今後も更なる工夫をし、持続可能な特色ある教育活動を展開していきたい。

みんな輝け 須賀川っ子

大田原市立須賀川小学校 伊藤 久美子

本校は、大田原の東部、八溝山系に囲まれ、四大禅寺で有名な名刹雲巖寺のすぐ側にあります。また、カジカやヤマメが生息する清流武茂川（むもがわ）も流れており、桃源郷のような大自然に恵まれた環境にあります。

一 地域とともにある学校

校訓「二光相照（にこうそうしょう）」（心身の二光輝け、相照らさん）のもと、「みんな輝け須賀川っ子」をスローガンとし、三十八名の児童は、少人数であることを強みとして、様々な活動を通して一人一人の個性を輝かせています。

また、大田原市では、中学校区ごとに小中一貫教育を推進しており、小中九年間の系統性を重視した指導を継続していき、学力・体力の向上を図り、将来に向かって、夢をもち、夢を実現できるような児童生徒に育てています。

さらに、へき地・複式校という特色を強みとし、地域とのつながりを大切に「ふるさと学習」を推進しています。地域の良さに学び、地域に貢献できる子どもを育成することを目的として、地域の自然や施設、地域行事等を体験し、地域人材を活用した出前授業も盛んです。秋には、地域を知る活動と



ブリティッシュヒルズにて



雲巖寺にて

地域之宝である子どもたちを、保護者や地域の皆様とともに大切に育てています。

二 英語教育

大田原市より英語教育研究校の指定を受け、七年前より授業の充実を図りつつ、四年生以上の児童全員が英語部として月一回放課後、英語の学習を行い、英語劇を発表しています。また、福島県にあるブリティッシュ・ヒルズに英語研修に出かけ、英語力を試しています。その他に、昨年よりZoomを活用した遠隔学習を行い、英語だけでなく、国語・社会・総合的な学習の時間等、他校との交流学習も盛んです。

特色ある学校づくり

小さくても大きな夢を育てる学校

壬生町立藤井小学校 瓦井 郁夫

本校は、全児童三十九名です。本当に小さな学校ですが、児童一人一人の大きな夢を育てたいと考えています。きめ細やかな指導の下、現在、長期欠席児童といじめの重大事態の発生はゼロです。

本校では、特に次の三点に力を入れていきます。
○ 小規模校のよさを生かし、活性化に努める

「一人一役」で、いろいろな係を経験し、また、再チャレンジする機会も多く自信を育てます。学習面では、少人数でT・Tの指導も行い、個に応じて分かるまでじっくり考える指導ができています。授業に限らず、人前で発表する機会も多いので「表現力」や「自己肯定感」を育てることができま

○ 藤井ならではの学校づくり

藤井地区は、栃木県のかんぴょう栽培発祥の地といわれています。五年生は「かんぴょうの秘密を探る」学習に取り組み、ボランテイアの方々に協力いただき、栽培、収穫、加工、民芸品の作製等幅広い活動をしています。運動会では自治会の方の参加種目もあり、「かんぴょう音頭踊り保存会」ともタイアップしてお囃子や踊りの指導にも関わっていただいています。さらに、近隣の壬生高校との交



かんぴょうのふくべ細工



小型ロボットでプログラミング

流も活発です。福祉コースの生徒たちと一緒に、カードづくりや点字・手話、調理実習などの学習をしています。また、地域クリーン活動や共遊の機会もあり、お互いが交流を楽しみにしています。
○ ICT機器の活用を進める

本校は、プログラミング的思考を生かした学校課題に取り組んで三年目になります。小規模校ならではの優位性を生かし、児童がタブレットの扱いに慣れ、年間指導計画ができていくのも先進的な取組の成果です。教職員も、若手、中堅の区別なくICT機器を活用した授業に積極的です。

藤井地区の未来を拓く一人一人の藤井っ子たちが、この小さな藤井小学校で、大きな夢を育てていけるように、私たち教職員は、保護者の皆様や地域の皆様のお力をお借りしながら、全力で本校の教育に取り組んでいます。

「ふれあい学習会」で子どもと地域と保護者をつなぐ

足利市立坂西北小学校 新井 和子

本校は足利市の西に位置する児童数百二十六名の小規模校です。旧松田小と旧三和小が統合して坂西北小が誕生してから、今年度で創立二十一年目を迎えました。校舎は松田の山々に囲まれており、初夏にはホトトギスの美しい声を聞くことができます。豊かな自然と地域の方々に支えられて、子どもたちは伸び伸びとまっすぐに成長しています。

特に地域との関わりが深い行事としては、公民館の協力を得て毎年秋に実施している「さかきたふれあい学習会」が挙げられます。平成二十年度から始まった学習会には、地域の方々に講師としてお招きし、茶道や箏、将棋、絵手紙、芋餅づくり、しめ縄づくり、グラウンドゴルフなど、それぞれの得意分野の技術を、全校児童に教えていただいています。学習会で熟練の技を教えていただいた後、子どもたちは講師の方々と一緒に給食をとり、最後は体育館で「さかきた合唱団」の合唱を披露します。

「また来年も来てね。」「家でも芋餅を作ってみます。」などと、名残を惜しむ子どもたちの姿から、講師の方々への感謝の気持ちが育ちつつあることが実感できます。

十二月に入ると、子どもたちは、お世話になった講師の方々に年賀状を書きます。絵手紙を教わった子どもの中には、野菜や果物を描

く子もいます。心のこもった年賀状は、講師の方々との往復書簡となります。

翌年の運動会には、講師の方々を来賓としてご招待します。行き会う子どもたちに声を掛け、かけっこやダンスを熱心に応援してくださる講師の方々。笑顔で応える子どもたち。「さかきたふれあい学習会」は、間違いなく学校と地域、子どもと地域をつないでいます。

講師の方々の高齢化が課題となってきた今、学習会は、次のステージに向かって歩み始めました。それは、保護者に講師の補助として関わっていただく試みです。単に講師を交代するのではなく、地域と保護者をつなぎ、世代間をつなぐことができれば、地域の活性化にもつながると考えるからです。

「さかきたふれあい学習会」が、子どもを成長させるだけでなく、ほんの少しでも地域の活性化につながったなら、こんなに嬉しいことはありません。

コロナ禍のため、残念ながら今年度は学習会を実施できませんでしたが、来年度は今年の分も交流できるよう準備を進めたいと思います。



芋餅づくり

話題の広場

コミュニティ・スクールの導入

益子町立田野小学校
水沼 誠

本校では、今年度から、「地域とともにある学校づくり」の更なる推進を目指して、コミュニティ・スクールが導入された。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休業の影響のため、教育活動の再開が六月からとなった。ようやく校舎に活気が戻り、児童は、三つの密を避けながら元気に勉強や運動に励むことができるようになってきた。しかし、コロナ禍の中、例年になく新たな取組として、全児童と職員の検温・体調確認、校舎内の消毒等を毎日実施している。また、地域や保護者の方々を学校に積極的に招くことができない現状であるが、地域と学校が一体となつて児童の安心・安全のために、「自分たちで何ができるか」を共通理解しながら、行動に移している。日々、「地域の力」を実感している。



消毒ボランティア

今後とも、地域の方々と目標やビジョンを共有し、地域に住んでいる児童を力を合わせて育てていきたいと思う。

学びの響をつなぐ

佐野市立あそ野学園義務教育学校
須藤 誠治

本校は、市内初の義務教育学校として、令和二年四月一日に開校しました。児童生徒数八百二十六名、教職員数八十二名です。

本校では義務教育九年間を一体としてとらえた系統性のある教育課程の工夫に努めています。学習指導では「学びの合言葉」、「あそ野スタンダード」などの学習のきまりを設定して連続性を大切にしながら組織的に取り組んでいます。また、幅広い異学年交流による特色ある活動やマスゲームなどの学校行事を通して温かな人間関係づくりにも力を入れています。さらに、学校と地域が共通の目標をもち、一体となつて児童生徒を育むために、学校運営協議会と学校地域応援団を設置しています。

三月末で閉校となった戸奈良小学校、三好小学校、山形小学校、閑馬小学校、下彦間小学校、飛駒小学校、田沼西中学校がこの地でこれまで果たしてきた役割と、それぞれの長い歴史の中で築き上げてきた輝く伝統を継承・発展させ、「ふるさとを愛し、自ら学び、心身を鍛え、未来を拓く児童生徒の育成」を目指して、様々な活動に積極的に取り組んでいきます。

事務局だより

事務局長 吉成 隆志

各地区からの要望や提案を総務部でまとめた提案事項について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じながら参加者を減らして、七月十三日に県教委との教育懇談会を実施しました。その詳細については、十月の第三回理事研修会で報告し、また県小学校長会ホームページに掲載しましたので、是非ご覧ください。

今年度の関ブロ茨城大会と全連小京都大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために誌上発表となり、各地区の校長先生方が顔を合わせてそれぞれの実践や実情について協議する機会を持つことができませんでした。

令和三年度には本県で開催される関ブロ栃木大会に向けた準備も新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じながら、全ての面で一から見直し、大会の開催に向けて各々が一丸となつて準備を進めています。推進委員会や各専門部会で協議・決定した内容については、随時県小学校長会ホームページ（会員のページ）に掲載してまいりますので、ご確認ください。

編集後記

まさか昨今の今頃、新型コロナウイルスによるパンデミックが起こるとは誰が想像したでしょう。

この未曾有の事態に、校長は情報を収集し、組織を作り、知恵を絞り、納得解・最適解を創り出し立ち向かっていったと思います。まさに子どもたちが生きていく未来社会を先取りした対応の連続だったと考えられます。また、教員の働き方改革が叫ばれる中、新たな対応を強いられ疲弊してしまうのではと、心を痛めたのではないかと思います。

しかし、新型コロナウイルスは別の意味で、改めて学校の在り方を考えさせてくれたのではないのでしょうか。

例年と違った忙しさの中、本号に玉稿をお寄せいただきました皆様、心より感謝申し上げます。

那珂川町立馬頭小学校
岡安 正弘